

令和3年度第2回 東かがわ市地域公共交通活性化協議会協議内容

日時 2021/11/15 (月) 15:00~17:00

場所 東かがわ市引田公民館3階ホール

■議事次第

3 グリーンスローモビリティ実証運行の状況報告

○資料3にて事務局より説明

会長) 利用者は高齢者が多いようだが、運行時間帯を見ると若い人が使える時間帯に運行していないので、結果をそのまま解釈しては危険である。もう少しニーズをきちんと把握する必要がある。小学生程度の子どもが街なかを一人で歩く姿を見ないし、遊ぶこともあまりない。家の人が車で送迎しているからである。地域内を動くのであれば小学生も対象として考えられる。その辺りのニーズがあるのかもつかんでおいた方が良くと思う。

手嶋委員) 実は会議の前にグリスロに乗らせていただいたが、あれば便利だろうと感じた。荷物を持つ人は特に。観光で乗っている人が一定程度おられる。JRの駅で時刻表を見て、「あれでは乗らないだろうと」。駅舎にそのまま貼ってあるので気づかない。公共交通との接続、来訪者への配慮はもう少し検討の余地があるように感じた。

事務局) いただいたご意見を参考に今後の方向性は結果をもって考えたい。

会長) 市外の方もJRでも観光列車を走らせると、それをめがけてやってくる。グリスロだけを目玉にするのであれば良いが、目的地が別にあるのであれば、そこのセットで考える必要がある。沿線とのタイアップ、モデルルートの設定が重要。流行りの話として、景色を撮ってインスタ映えということもあるが、行った先で何があるのかをセットで考える必要がある。事務局だけで考えるのではなく、協議会メンバーの知恵も必要である。事務局任せにせずアイデア出しをしてほしい。

南委員) 観光でJRからの乗り継ぎが無いというのはショックを受けた。先日も特急から降りたお客様が観光地に向かうにあたりうろうろと迷われていたのが気になった。先日試乗したが、高齢者も非常にありがたいと思う。音楽が最初はうるさいのではないかと思ったが、高齢者はそれが聞こえることで外に出てきているようである。

事務局) 音楽はメリットデメリットの両面がある。実施には地域や関係機関との連携が重要だと思うので、引き続き協議していく。

会長) 観光協会の意見は。

尾崎委員) 二次交通としてのグリスロに課題があるのは承知している。そこに行くまでの手段と連携が必須。

手嶋委員) 引田城址は宮城県とかからも来ている。そうした人がグリスロを利用していないのであればそれも課題。アクセスには徒歩20分としか記載されていない。きちんとどんなサービスがあるのかを示してあげないといけない。今後はそうした活かし方をご検討いただきたい。

会長) 引田駅の駅員の方と連携するなど必要。ひな祭りなどの資源も多いので、有機的に連携できればいい。

大字委員) 地元で毎日見ているが、当初は住民への周知が足りていなかった。もう少しPRを工夫すればよかった。寒い暑い等もあるようだが、コースに関する意見もあるようだ。高齢者も「これなら利用しようかな?」と思い始めている。観光コースは見ていると、楽しんで乗っているようである。やり方によっては観光の利用はもっと伸びるように思う。駅での情報提供については工夫すれば観光利用はもっと伸びると思う。

会長) 観光案内とセットにすればその辺りで事業性も出てくるように思う。今回は実証ということで無償運行しているが、有償化に向けて参考になるような実証実験にしてほしい

松本委員) 自分も先週の日曜に観光コースを1時間余り利用した。高松あたりから若井夫婦が乗っていたが、引田城に行きたそうだった。帰りの便が……。降りて山に登るのに躊躇していた。うまくコースを組めれば良いと思った。

副会長) グリスロの取組など最初から完璧な内容でやるのは難しい。修正できるところは修正して結果を出せると良い。そもそも引田でグリスロを走らせるにあたり、目的を明確化し、その結果を明らかにすべき。日常生活コースの利用回数など今回のグリスロ実証運行で、どういう人が便利に感じて使うようになったのかがわかるようになれば、また今回救えなかった人はどういう人かの把握も必要。観光者はドライバーとの会話を評価している点に勇気づけられた。

会長) タクシー会社でも観光に重点を置いている会社があり、きちんと知識を得るようにしているところもある。ドライバーと会話することでその地域を知れる。今は有志の方がボランティアで運行されているということだが、タクシー事業者はどのように感じているか。

原田委員) 引田方面は元々利用者が少ないので、タクシーの利用が減ったということは無い。実証運行はもう少し継続するようなので、今後も確認はする。

会長) 実証運行はもう少し継続するようなので、今後も注視いただきたい。

3. 関係機関の取組状況について

南委員) みどりの券売機プラスを三本松駅に導入、機械を入れることで朝4時半から切符を購入することが可能。改札やお客様のご案内もより丁寧に対応できる。グリスロは二次交通として高德線・予讃線の駅にチラシを設置・配布。JR四国ニュースの11月号にグリスロの記事を掲載した。

会長) デスティネーションキャンペーンをやっている。setowaで電子チケットも購入できる。高松でことでの新駅ができていますが、車内案内で気づいた。周知をどのようにやるかが重要。持ち帰ってご自身が所属する団体でPRについて検討いただければ。チケットについては元々問題であった、引田で切符が買えるか高松駅で聞いたが「?」という感じだった。安心感が課題。乗り方がわからない。

上野委員) 先日、引田小学校で乗り方教室を開催した。対象は小学2年生。時間配分がうまくいかなかったり、久しぶりで不慣れだったためうまくいかない点もあったが、概ね好評であった。小学生に限らず乗り方教室は実施可能なので、気軽に声掛けいただきたい。引田～三本松間のルート新設を10月1日より始めたが、利用者数はあまり変わっていない。経費をかけてやった割にあまり利用者がいない。利用者に伺ったら、昼間にやり過ぎといった声があった。今後、ご希望に添えるようにやりたい。引田線の所要時間の見直しも検討したい。

会長) 商業施設側に意見を聞いたりしてはどうか。店の方に意見を言う方もいるように思う。店にPR

してもらおう点もあるように思う。

上野委員) 特にまだ店の方に聞いていない。時刻表が変わったので、引田駅の喫茶店や沿線の病院等に情報提供している。JR の駅に時刻表は置いたが、自社のバス停にはおいていなかったことを反省している。井筒屋敷など街なかを迷路のように探索してみようという観光と併せた企画があっても良いと思う

会長) 公共交通マップを作っていないだったので、作らないか。バスや鉄道を安心して使うためにはタクシーがあることも重要。引き続き情報交換をお願いしたい。

三好委員) 高齢者施設による買い物支援の取組、馬篠、北山地区の高齢者を対象とした地域貢献の一環。自治会やサロンの協力を得て香川県下の社会福祉法人等で組織する香川おもいやりネットワークの認定事業になっている。施設送迎者の空き時間を利用し、マルナカ白鳥店や寒川のビック等に買い物に行く。のべ 75 人が参加、最初は買い物に困っている高齢者の買い物支援のつもりで始めたが、遠足のような気分で交流の場のような利用になっている。サロン推進者研修会で公共交通の勉強会を実施予定、3 日間で 49 名の方が、うち 12 名が公共交通で参加予定。研修の中で地域創生課が市内の公共交通について説明予定、グリスロの試乗も実施する。

会長) 利用者の方から普段の生活の困りごとが上がってくると思うので、その辺りの内容をまたこの場で共有いただければと思う。まだ本当の困りごとをつかみきれていないように思う。買い物支援は誰が送迎しているのか？

三好委員) 3 台の車両で絹島荘の方が行っている

宮崎) 愛媛県の東温市でも NPO の会員限定ではあるが、ツアーのようなことをしている

事務局) (地域との移動手段確保の検討状況について報告) 小海の地域コミュニティ協議会やタクシー事業者と検討中。今後も協議していく。実施にあたり、関係機関に個別に可否等について確認しながら進めていきたい

会長) うまくいった・いかなかったはまたこの場で情報共有いただければ

上野委員) 外国人向けの googlemaps 対応のための GTFS-JP がつい先日、対応した。

会長) 目的地が決まっている場合は良いが、決まっていない場合の案内も必要

手嶋委員) 不便地区の移動手段確保にあたり、タクシー事業者の活用を検討されているということだが、他方でタクシー事業者のリソースが少ないため、その辺りを考慮した対応も必要。

5. その他

事務局) 今年度最後の協議会を 2 月 21 (月) の 15 時から開催したい。

○承認された。

以上